



取扱説明書

灌水ポンプ

BP252



ガソリンのみで運転
しないでください。

使用燃料の混合方法はP9
を参照してください

目次

◎はじめに	1	・混合燃料の準備と補給方法	9
1. ⚠ 安全に作業するために	2	・始動と停止方法	10
・作業前の注意	2	・運転	13
・使用時の注意	3	・停止	14
2. 各部のなまえと操作部のはたらき	5	・使用後の注意	15
3. ⚠ 警告ラベルの取扱い	5	6. 清掃と点検・整備	15
4. 付属品	6	7. 長期保管	18
5. 取扱及び操作のしかた	7	8. ポンプの故障診断と処置	19
・ホースの組立	7	9. エンジンの故障と処置	20
・始業点検	8	10. 仕様	22

ご購入いただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ご使用前に、「安全に作業するために」を必ずお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。
この取扱説明書は、安全で快適な作業を行なっていただくために、製品の正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用前によくお読みいただいて充分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの本書をご活用ください。

また、お読みになったあと必ず大切に保存し、わからないことがあったときには取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などによりお買い上げの製品と本書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

本製品についてお気付きの点がございましたら、最寄りの取扱店にお問い合わせください。

■使用目的

本製品は灌水を目的とした製品です。この目的範囲以外の使用が原因での事故、及び分解を行い、それに伴って生じた事故に関して一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■注意表示について

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

- ⚠ 危険**・・・もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う事になるもの。
- ⚠ 警告**・・・その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。
- ⚠ 注意**・・・その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。
- 注意**・・・その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性があるもの。

■この製品を他人に貸すとき、運転させるとき

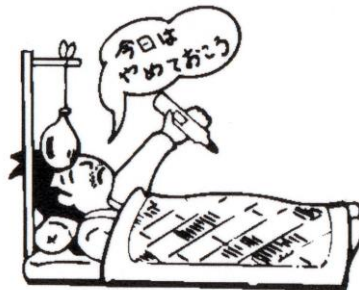
事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある **⚠** 印のついている警告ラベルを一枚ずつ説明してあげてください。この製品と一緒にこの取扱説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を会得してから作業するように指導してください。とくに禁止事項については念を入れて説明してください。家族に運転させるときも同じように説明してください。

自分が使用するつもりで！



こんな人は、作業してはいけません

- 過労、病気、薬物の影響、
その他の理由により正常な
作業が出来ない人。
- 酒気をおびた人。
- 妊娠している人。



1-922

作業に適した服装をします

身体にあったものを
着用する散布業者

帽子

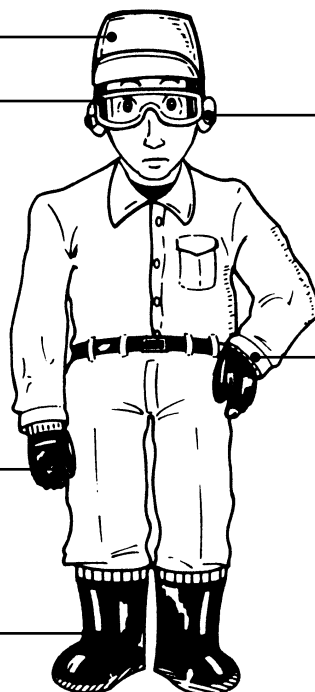
保護メガネ

耳栓（騒音作業）

保護衣
（袖口スッキリ）

保護手袋

作業靴
（長靴）



● 保護具は、つねに正常な機能を有するよう点検・整備を行い、正しく使用してください。

使用用途

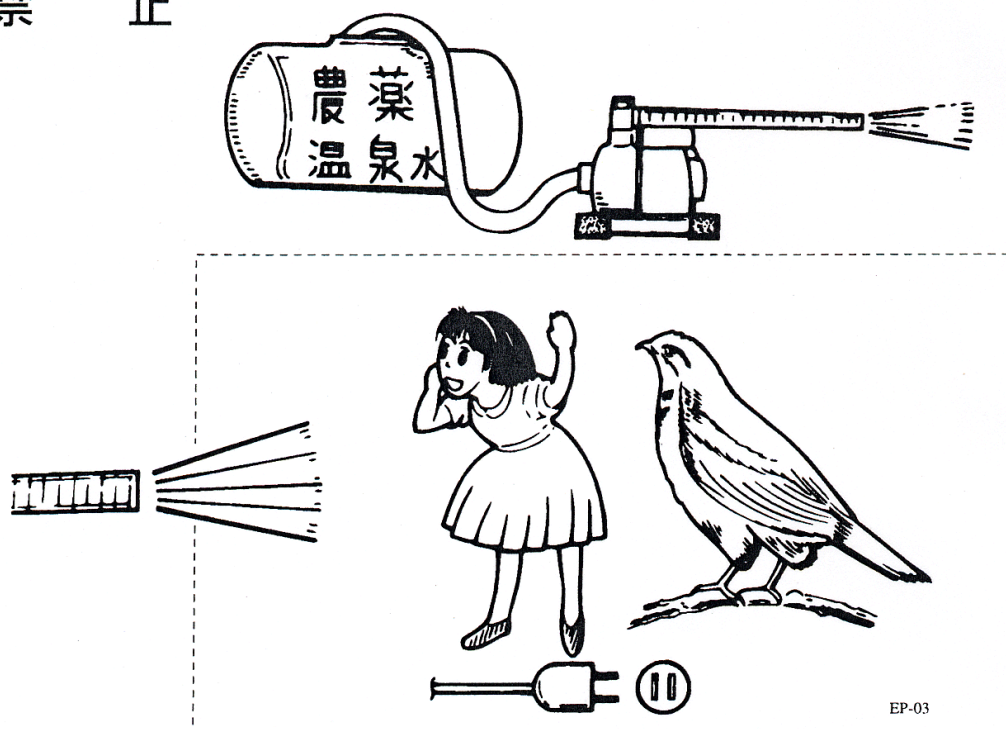
- 水田、畑地、果樹園等への灌水。
- スプリンクラー散水。
- 一般排水、土木排水。
- 作業機等の洗浄。

（●使用液は清水、地下水、河川の水、用水路の水を使用してください。農薬、化学薬品、温泉水での使用はお止めください。）

ポンプについて

- 吐出口からは多量の水が吐出されますので、人や動物に向かって吐出さないでください。
- 運転中は、本機から離れたりせず、またむやみに本機に人を近付けないでください。
- 図のような使用は危険です。行わないでください。

禁 止



エンジンについて

⚠ 危険

- 混合燃料は可燃物です。運転の場所に火気は近付けないでください。
- 混合燃料の補給や手入れをするときには、タバコなどの火気を近付けないでください。

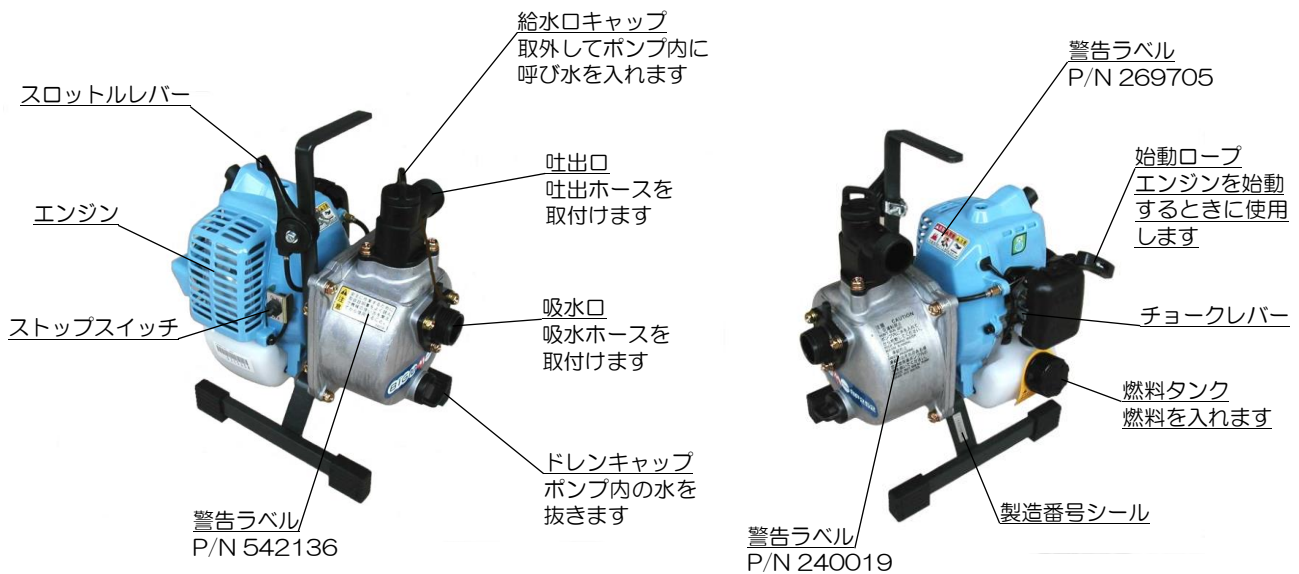
⚠ 警告

- 混合燃料の補給はエンジンを必ず停止し、冷えてから行います。こぼれた混合燃料はきれいに拭き取っておきます。
- 始動は必ず給油した場所から3m以上離れたところでエンジンを始動してください。
- 混合燃料を基準容量以上補給したり、激しい振動を与えたり本機を傾けたりしないでください。
- エンジンの排気ガスは有害です。閉め切った部屋での運転は、CO中毒の恐れがありますので、おやめください。また、吸込まないように注意してください。

⚠ 注意

- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー・シリンダフィンなどに手を触れると、やけどをする恐れがあります。
- エンジン運転中のプラグには高電圧が通っています。電気ショックを受けますので運転中は絶対にプラグやプラグコードに手を触れないでください。
- 運転中に混合燃料が漏れている場合は、火災になるので直ちにエンジンを停止して修理してください。
- 機械に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じたときは、直ちに作業を中止して修理してください。

2.各部のなまえと操作部のはたらき



3. ⚠ 警告ラベルの取扱い

⚠ 注意

- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは必ず新しいラベルと交換し、同じ場所に貼ってください。
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

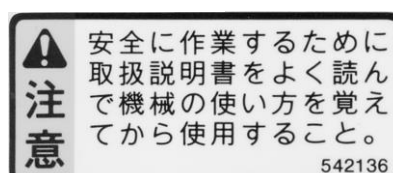
※本製品には、下の図に示す位置に次の警告ラベルが貼ってあります。

下記にその内容を記載してありますので、よく読んでその意味を充分理解した上で、表示内容を守って作業してください。

P/N 269705



P/N 542136



P/N 240019

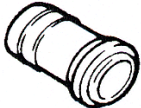
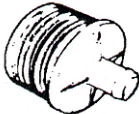
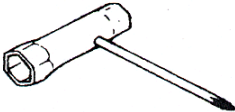
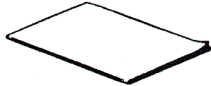
注意 CAUTION

1. 空運転禁止
DON'T RUN DRY.
ポンプ内に水を入れてから始動してください。
POUR PRIMING WATER BEFORE RUNNING.

2. 凍結防止
FREEZE PROOFING
凍結のおそれのある場合は使用後ポンプ内の水を抜いてください。
FREEZE MAY BREAK PUMP. DRAIN OUT WATER.

4.付属品

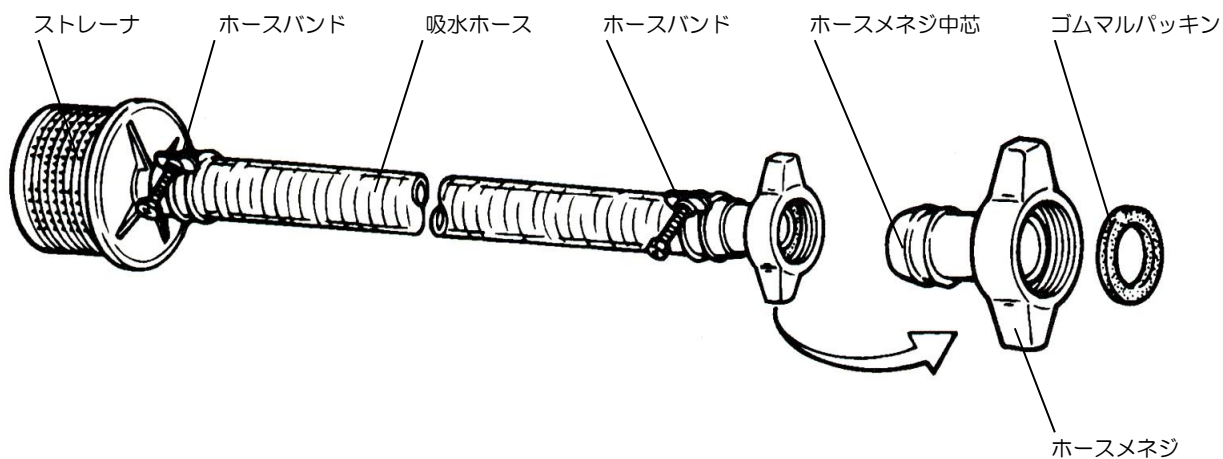
- 本機及び付属品を点検して、損傷、欠品等がありましたら、すぐにご購入になりました販売店にご連絡ください。1ヶ月以上経過してお申し出には応じかねることがあります。

吸水ホース		X 1 P/N 240027
ホースメネジ		X 2 P/N 272283
ゴムマルパッキン		X 2 P/N 240859
ホースメネジ中芯 (25mm)		X 2 P/N 240858
ストレーナ		X 1 P/N 240564
ホースバンド		X 3 P/N 240030
コンビボックススパナ		X 1 P/N 549653
取扱説明書		X 1 P/N 546360

●オプション（別売）品

サイズ	品 番	名 称
25（1インチ）	534415	カムロック25

吸水ホースの組立

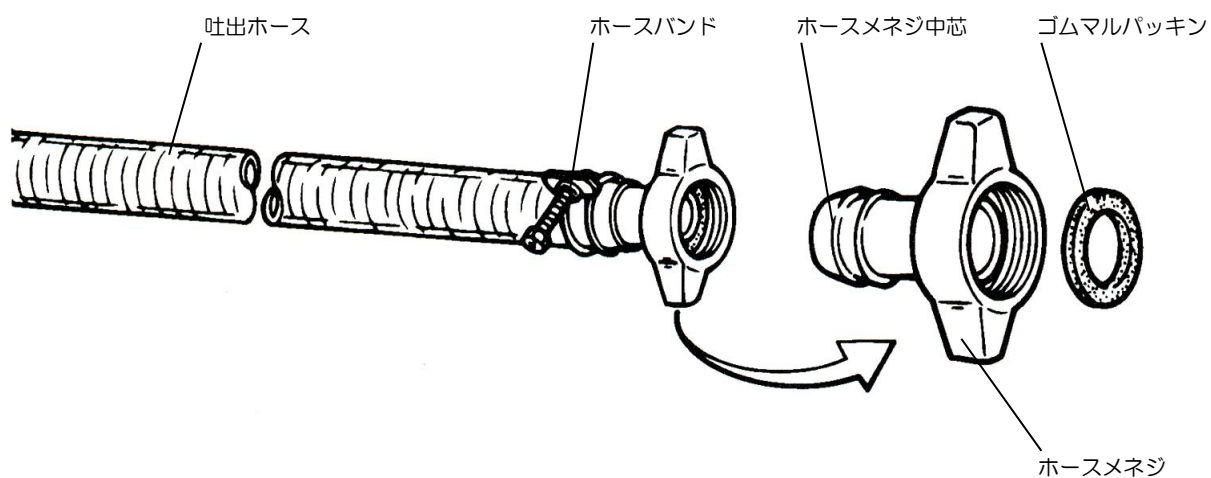


- ホースへのホースメネジ中芯挿入は、ホースメネジが自由に回せるように5～10mmの間を設け、ホースバンドにて、空気の吸込みや水漏れがないように確実に締め付けてください。

注意

- 吸水ホースは負圧になるので、つぶれないホースを使用してください。

吐出ホースの組立



- 吐出ホースは付属品になっておりませんので、必要に応じて販売店へお問い合わせください。

始業点検

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。始業点検は毎回行うことにより、故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検ですので必ず実施してください。

点検内容

- 機械各部のネジがゆるんでいないか点検します。ネジがゆるんでいると運転中部品が落下し故障の原因となります。
- エアークリーナの点検・清掃（P 16参照）
- エンジン排気口が詰まっていないか点検します。
- ポンプは水源の近くの水平な場所に水際より離して設置します。
- 吸水ホースはできるだけ短く、曲がりや折れのないようにするとポンプの性能は良くなります。吸水ホースの重量がポンプにかかってポンプが傾いたり移動したりする場合は、吸水ホース、ポンプを固定してください。
- 吸水ホースは負圧になるので、つぶれないホースを使用してください。
- 吸水ホースは必ずストレーナを付けた状態で使用してください。ストレーナなしで運転すると石、ゴミ等を吸い込み故障の原因になります。
- ストレーナは完全に水源に入れ、浮き上がったり、泥に埋まったりしないようにしてください。

(1) 混合燃料の準備

注意

- ガソリンだけで運転すると、エンジンが焼き付きます。

危険

- 混合燃料は引火性の高い燃料です。必ず火気厳禁を守って取扱ってください。
- 混合燃料を補給するときは必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。
- 混合燃料は金属製の缶に入れて運搬、保管してください。

燃料は無鉛ガソリンに2サイクル専用オイルを
25（ガソリン）：1（オイル）

の割合に混合した混合燃料を使用してください。

注意

- 混合燃料は1回で使い切る量だけ作ってください。
- 1ヶ月以上経過すると揮発したり、腐敗してエンジンが故障します。

●燃料混合表

ガソリン	2サイクル専用オイル
1 ℓ	40ml(cc)
5 ℓ	200ml(cc)

●混合燃料の作り方

- ① 混合器はいつもきれいにしておいてください。
- ② 混合器に、混合するガソリンの半分を入れてください。
- ③ 規定量のオイルを入れ、残り半分のガソリンを入れてください。
- ④ 混合器のキャップを確実に締め、混合器をよく振ってガソリンとオイルを混合してください。



注意

- 燃料タンクに直接ガソリンやオイルを入れないでください。

(2) 混合燃料の補給方法

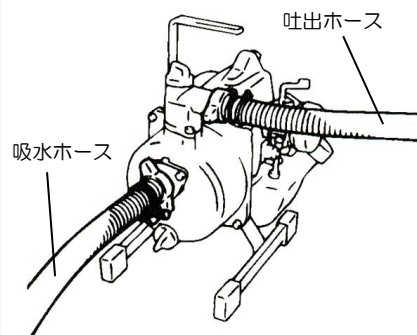
燃料タンクに混合燃料を少しずつ、ゆっくりと入れてください。燃料タンクいっぱいに入れますとこぼして危険ですので、ひかえ目（約8分目）に給油してください。

警告

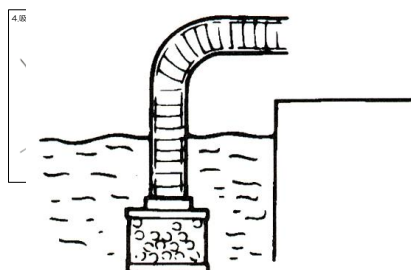
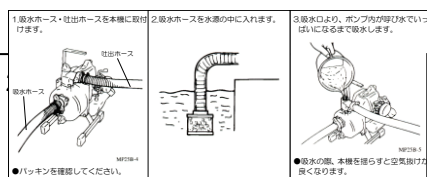
- 混合燃料はこぼさないように注意して入れてください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。
- キャップはしっかり締めて、混合燃料がもれないことを確認してください。
- キャップから燃料もれがある場合、キャップを締め直してください。燃料もれが止まらない場合は、修理してください。
- 補給時にエンジンからの燃料もれがないか確認してください。もし燃料もれがある場合は、直ちに修理してください。

(1) ポンプ

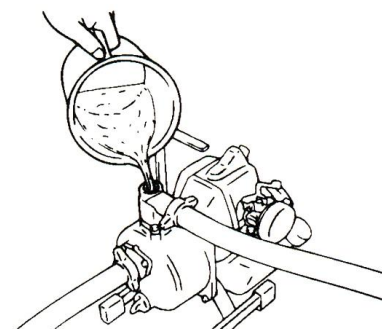
1. 吸水ホース・吐出ホースを本機に取り付けます。



●パッキンを確認してください。

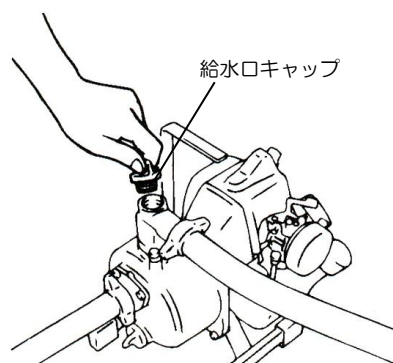


3. 給水口より、ポンプ内が呼び水でいっぱいになるまで給水します。



●給水の際、本機を揺らすと空気抜けが良くなります。

4. 給水口キャップをしっかりと締めます。



注意

- エンジン始動前に必ずポンプ内に呼び水が入っていることを確認してください。
- 空運転をするとシールが損傷します。

(2) 始動

警告

- 始動は必ず、給油した場所から3m以上離れたところで行ってください。
- 排気ガスは人体に有害です。換気の悪い場所で運転しないでください。

注意

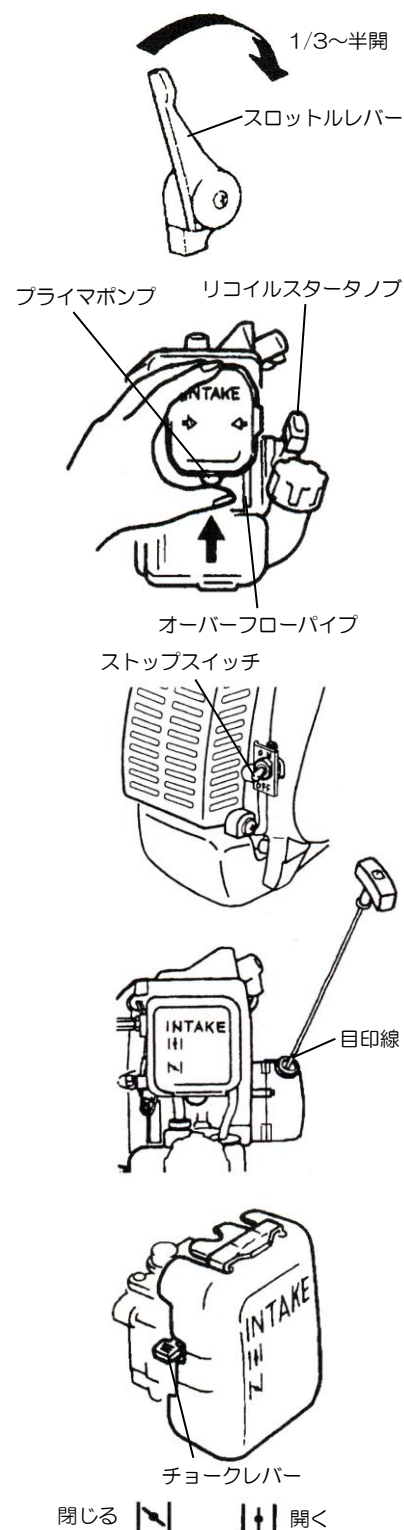
- 作業機から発する電波雑音により、無線装置が誤作動する恐れがあります。無線装置の近くでは、運転しないでください。

- ① スロットルレバーを1/3～半開にしてください。
- ② プライマポンプを矢印側から押してください。
オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料が戻り、空気の泡が出なくなるまで何回も押してください。(燃料タンクに混合燃料を入れて最初に始動するときは、7～10回程度押す必要があります。)
- ③ エンジンが冷えているときは、チョークレバーを  (閉じる) にしてください。気温が高いときやエンジンが暖まっているときは、チョークレバーを  (開く) にしてください。
- ④ ストップスイッチを「ON」にしてから、リコイルスタータノブを引いてください。(リコイルスタータノブを引くとロープに緑色の目印線が出てきます。その目印線のところまで引くのが始動の目安です。その後スタータノブを戻し始めると、そのことをスタータが感知してエンジン始動が始まります。強く引いたり、早く引いたりする必要はありません。ロープの目印までスムーズに引き、スムーズに戻してください。)

注意

リコイルスタータノブを戻したロープが引き込まれず、たるんでしまった場合や、引き始めから引き力が大きく感じるときは、5～10cmほど強めにリコイルスタータノブを引くと正常に戻ります。

- ⑤ リコイル操作を繰り返し、エンジンが始動したら、エンジンの調子をみながらチョークレバーを徐々に  (開く) にしてください。爆発音のみで始動しなかった場合は、チョークレバーを  (開く) の位置にしてリコイルスタータを引いて始動してください。爆発音が一回でもあった場合は、チョークレバーを  (開く) の位置にしてください。このときのように、初めて爆発したことを初爆といいます。



注意

- 初爆の音を聞きのがして、チョークレバー  (閉じる) のままリコイルスタータを何回も引き続けると、混合燃料がエンジンシリンダの中へ入り過ぎて、エンジンが始動できなくなります。チョークレバー  (閉じる) で5～6回リコイルスタータを引いても初爆が無い場合（聞こえなかった場合）は、チョークレバーを  (開く) にして、スロットルレバーを全開にして、リコイルスタータを5～6回引いて始動してください。

- ⑥ エンジンが始動したら、スロットルレバーは低速回転側いっぱい（アイドリング位置）に戻し、1～2分間暖機運転してください。

！ 注意

- 感電事故防止のため、運転中はプラグキャップや高圧コードにさわらないでください。
- ここで実作業に入る前に、(3) 停止の項に従って、ストップスイッチを「OFF」にしてエンジンが停止することを確認し、始動・停止の練習をしてください。

(3) 停止

- ① スロットルレバーを、低速回転側いっぱい（アイドリング位置）に戻し、1分位冷却運転してください。冷却運転しないでエンジンを停止するとバックファイヤーを起こし、爆発音を発生することがあります。
- ② ストップスイッチを、「OFF」にしてください。

！ 警告

- ストップスイッチの故障で、スイッチを押してもエンジンが停止しないときは、チョークレバーを  (閉じる) の位置にしてください。エンジンは失速停止します。
- その後すぐ最寄りの販売店にストップスイッチの修理を依頼してください。
- 修理が完了するまではエンジンポンプを運転しないでください。

注意

- 高速回転で運転中に急に停止することは、エンジンに無理がかかり故障の原因になります。緊急時以外は、スロットルレバーをアイドリング位置に戻してからエンジンを停止してください

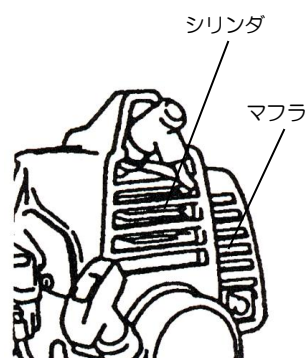
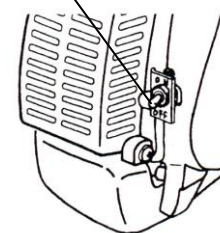
！ 注意

- やけど防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラ等の高温部にさわらないでください。

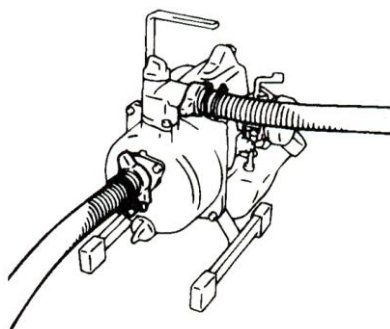
低速回転側いっぱい
(アイドリング位置)



ストップスイッチ

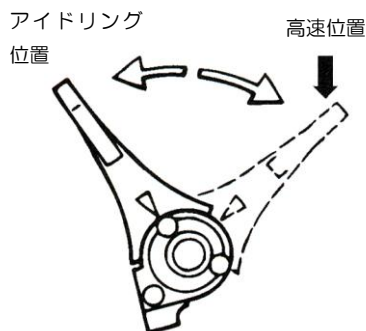


1.ポンプに異常音がないか確認します。



MP25B-4

2.スロットルレバーを所定の位置に合わせ運転します。



回転を上げる場合は急激に上げず徐々に上げてください。

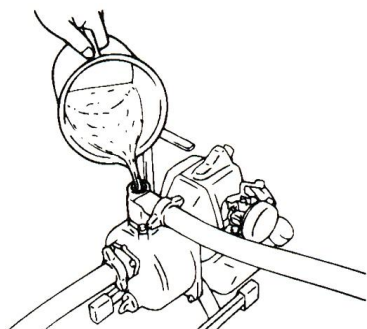
注意

- 3分間位経過しても、吸水ホースに水が吸い込まれないときは、直ちにエンジンを停止してください。
P 19を参照して適切な処置をして原因を取り除いてください。

注意

●運転中は下記に注意してください。

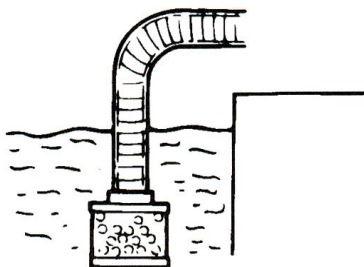
1.空運転厳禁
呼び水は必ず入れてください。



MP25B-5

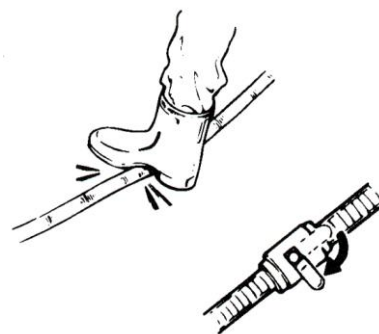
シールが損傷してしまいます。

2.吸水ホースは必ず水源の中へ。



ケーシング内の呼び水の水温が上昇しシールが損傷してしまいます。

3.吐出ホースをつぶしたり、吐出側のコックを急に締めないでください。



ケーシングが破損する場合があります。

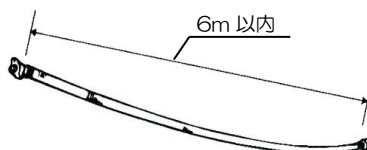
注意

●吸水ホースを3m以上で使用する場合は下記に注意してください。

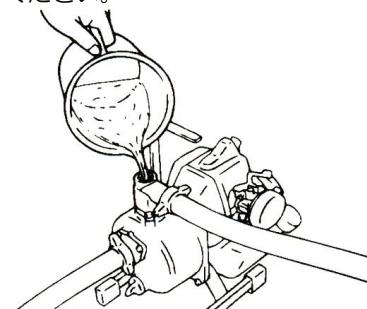
1.ホースを継ぎたす場合は接続部から空気が入り易くなりますので、パッキンを確認し、しっかり締め付けてください。



2.吸水ホースは 6m 以内のものを使用してください。



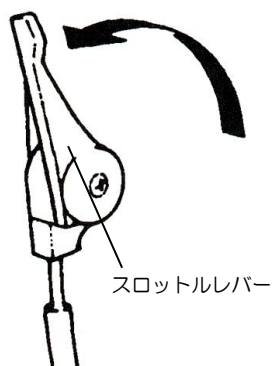
3.ホースが長いと吸水時間が長くなり、吸水が悪くなる場合があります。吸水が悪いときは一旦エンジンを停止しケーシングに呼び水を追加してください。



MP25B-5

1.スロットルレバーを低速にします。

低速回転側いっぱい
(アイドリング位置)



2.ストップスイッチを「OFF」にしてください。

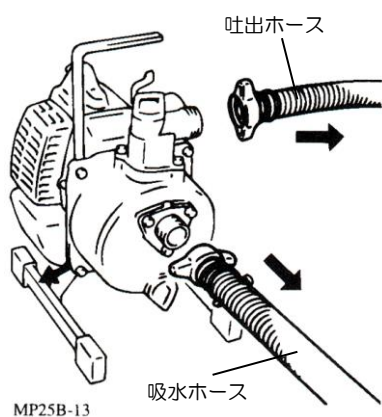


注意

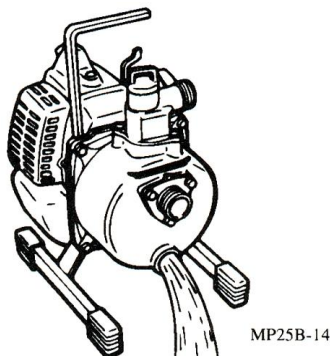
- 高速回転で運転中に急に停止させることは、エンジンに無理がかかり故障の原因になります。緊急時以外は低速位置に戻してから停止してください。
- 万一、ストップスイッチの故障で、スイッチを「OFF」にしてもエンジンが停止しないときは、チョークレバーを  (閉じる) にしてエンジンを停止してください。

●作業終了時にはポンプの下記項目を行います。

3.吸水ホース・吐出ホースを本機から取外します。



4.ドレンキャップを取外しポンプ内の水抜きをします。



- 水抜きが終了したら、ドレンキャップは締付けておきます。

注意

- 停止後再始動する場合は、ケーシング内の呼び水の量を確認し少ない場合は追加してください。
- 泥水等で運転した場合は、清水で運転してポンプ内を清掃してから停止してください。
- 凍結の恐れのある時は、使用後必ずポンプ内の水抜きをしてください。

- ポンプ内に残った水は、水抜きをしてください。泥水等で運転した場合は、清水で運転してポンプ内を清掃してから水抜きをしてください。
- 燃料は、全て抜き取ってください。プライマポンプを何回か押してキャブレタ内の混合燃料を燃料タンクに戻してください。その後もう一度、燃料タンクの混合燃料を燃料缶に排出してください。
- 損傷箇所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗品はすべて当社指定の純正部品をご使用ください。
- 本機を清掃し、保管は湿気の少ない場所に、チリやゴミが付着しないようにしてください。

6.清掃と点検・整備

⚠ 警告

- 取扱説明書に記載されていない整備・調整は、最寄りの取扱店に依頼してください。

⚠ 注意

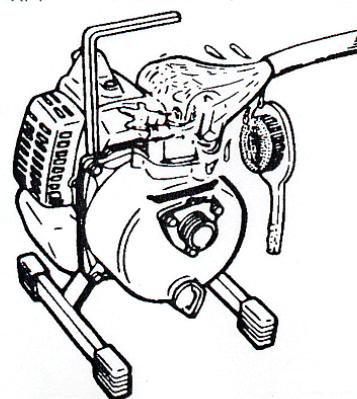
- 部品を交換する場合は、必ず当社指定の純正部品をご使用ください。
- 機械の点検・整備を行うときは、回りを整理して行ってください。また作業に関係ない人を近付けないでください。

●ポンプ

- ・ポンプ内の水抜きをします。
- ・吸水ホース、吐出ホースはポンプから外しておきます。
- ・外部を布等で清掃し整備をします。
- ・もし、不調か異常がありましたら、その原因について処置します。
- ・泥水、汚れをとり除き、オイルのしみた布できれいにみがいてサビ止めをします。
- ・各部のネジの緩みを点検し、緩んでいる部分は充分締付けます。
- ・各部配管は、接続口の一端を外して完全に排水します。特に酷寒地では、バルブ配管等の凍結破損を起こすことがありますから充分注意し、各バルブは開けておきます。

注意

本機は直接水をかけて洗わないでください。故障につながります。



●エンジン

(1) キャブレタ

・ワイヤアジャスタの調整

スロットルレバーをいっぱいに戻したとき、スロットルワイヤの遊びは1～2mmが正常です。

この範囲になるようロックナットを緩めて、ワイヤアジャスタで調整してください。

調整した後、ロックナットを締めて固定してください。

・アイドルスクリュの調整

エンジンのアイドル回転速度は出荷時に調整済みですが、もし調節が必要な場合がありますら次の要領で調整してください。

① アイドリング回転が高い場合

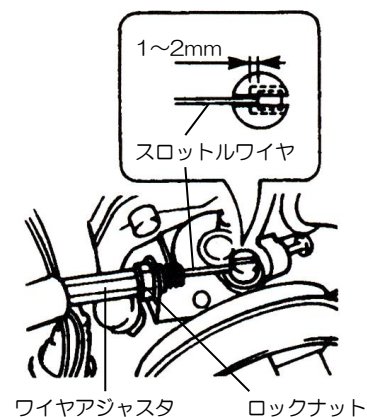
アイドルスクリュを

左（反時計方向）に回す。→ 回転下がる

② アイドリング時にエンジンが停止してしまう場合

アイドルスクリュを

右（時計方向）に回す。→ 回転上がる



! 注意

- (2)～(5) の点検・整備は必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

(2) エアクリーナ

エアクリーナのエレメントが汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良を起こします。

25時間使用したら必ず清掃してください。また、チリやホコリの多いところで使用した場合は、一日一回清掃してください。

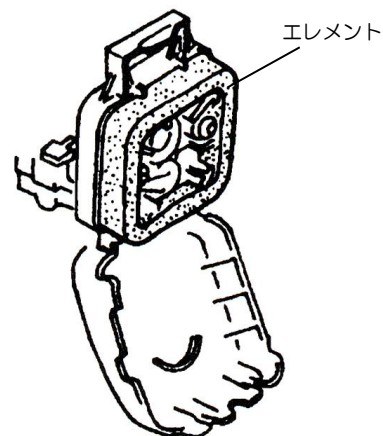
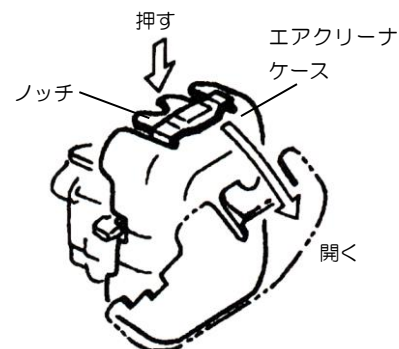
① エアクリーナケースを開けてください。

② エレメントを取り出し、ガソリンで洗ってください。

③ エレメントを絞ってから元の位置に取り付けてください。

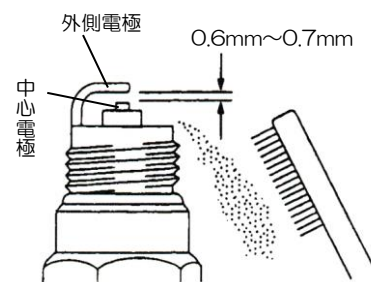
④ エアクリーナケースを閉じてください。

（閉じた後、ノッチが確実に入っていることを確認してください。）



(3) 点火プラグ

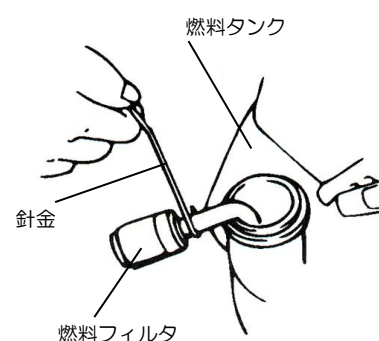
- ① 点火プラグの電極スキマは、0.6mm～0.7mm（ハガキ3枚分程度）が正常です。広すぎたり狭すぎたりしている場合は調整してください。また、電極部にカーボン等が堆積している場合はワイヤブラシ等で清掃してください。
- ② 中心電極や外側電極が焼けて丸く減っている場合は、プラグを交換してください。
- ③ 点火プラグの点検は25時間毎に行なってください。



(4) 燃料タンク

燃料フィルタが詰まると、始動不良や加速不良の原因になります。

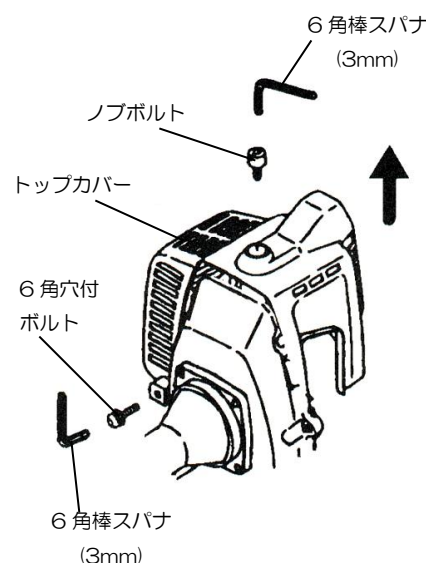
- ① 25時間毎にフィルタを取り出して、ゴミを取り除きガソリンで洗浄してください。
汚れがひどいときは、フィルタを交換してください。
- ② 燃料タンク内にゴミがあるとフィルタが詰まりやすくなります。
ゴミを取り除き、燃料タンクとフィルタをガソリンで洗浄してください。



(5) エンジン各部の清掃

エンジン各部にゴミが詰まっていると、エンジンの冷却不良が発生し、オーバーヒートの原因になります。10時間毎に清掃してください。

- ① 六角棒スパナ（3mm）を使って六角穴付ボルトとノブボルトを取り外し、トップカバーを外し各部を清掃してください。
- ② 清掃後は、カバーを元の位置に取り付けてください。



警告

●カバーやボルトを外したまま、エンジンを運転しないでください。

(6) マフラ

マフラ内にカーボンが堆積すると、エンジンの出力低下を起こします。マフラ内部、シリンダ、ピストンのカーボン除去作業には、専門の技術および道具を必要とします。最寄りの取扱店に点検整備をご依頼ください。

7.長期保管

「清掃と点検・整備」P16～17の(2)～(6)項の整備を行ってから保管してください。また損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。

- (1) 混合燃料がタンク内やキャブレタ内に残ったまま長期保管すると、混合燃料が変質してエンジンが始動できなくなります。1週間以上使用しない場合は、必ず混合燃料を抜き取ってください。
- ① 燃料タンク内の混合燃料を燃料缶に排出してください。
 - ② キャブレタのプライマポンプを混合燃料が出なくなるまで押して、配管通路内の混合燃料を燃料タンクに戻してください。
 - ③ もう一度燃料タンクの混合燃料を燃料缶に排出してください。
 - ④ ポンプに呼び水を入れて始動させ、エンジンが止まるまで運転してください。停止後ポンプ内の水抜きを行ってください。(ポンプの空運転は絶対にしないでください)
- (2) 点火プラグを外し、プラグ穴の中へ2サイクルオイルを数滴注入してください。2～3回リコイルスタータをゆっくり引いた後、点火プラグを取り付け、締め付けてください。
作業時に油滴等が飛び散ることがありますので、保護メガネ等で目を保護してください。
- (3) 各部を十分に清掃し、保管はチリやホコリが付着しないように注意して火気のない、高温や多湿にならないところに格納してください。

8.ポンプの故障診断と処置

- ☆印以外については、最寄りの取扱店に調整、修理を依頼してください。
- ☆印についてはお客様がご自分で出来る点検内容です。

状 態	原 因	処 置	
ポンプが回らない	エンジンが正常に回らない	エンジンの故障と処置参照	☆
	インペラが錆びている	分解修理	
	インペラに異物がかんでいる	分解修理	
吸水時間が長い 全然吸水しない	空気を吸っている	吸水各部の点検及び増し締め	☆
	呼び水不足	ケーシング内に呼び水を追加	☆
	メカニカルシール不良	メカニカルシール交換	
	エンジン回転数不足	回転数を上げる	☆
	吸水高さが高すぎる	水源に近い位置にセットする	☆
	吸水ホースがつぶれている	吸水ホース交換	☆
	ストレーナ、ホースの詰まり	掃除する	☆
吸水量不足 吐出圧量不足	空気を吸っている	吸水各部の点検及び増し締め	☆
	エンジン回転数不足	回転数を上げる	☆
	吸水高さが高すぎる	水源に近い位置にセットする	☆
	インペラが磨耗している	交換	
	吸水ホースが細い	太くする	
	異物のかみこみ	ストレーナ点検	☆
		インペラ点検	

9.エンジンの故障と処置

(1) まったく始動しないとき

故障原因	対策
スイッチが「OFF」になっている	スイッチを「ON」にする
マフラーテールパイプがカーボンで詰まっている	テールパイプのカーボンを取り除く
不良燃料や水などが混入した燃料を使用している	燃料タンク内及びキャブレタ内の燃料を正規の混合燃料に入れかえる (P9 混合燃料の準備と補給方法の項目参照)
燃料フィルタにゴミが詰まっている	燃料フィルタを清掃する (P17(4) 燃料タンクの項目参照)
点火プラグにゴミが付着している	点火プラグを清掃する (P17(3) 点火プラグの項目参照)
燃料を吸い過ぎている	点火プラグを外し、よく拭き取り、乾燥させる

(2) 始動するが回転が上がらなかったり、出力が充分でないとき

故障原因	対策
チョークが全開になっていない	チョークを全開にする
スロットルレバーが充分に開いていない	スロットルレバーを充分に開く
燃料混合比を誤っている	正規の燃料混合比の混合燃料に入れかえる (P9 混合燃料の準備と補給方法の項目参照)
燃料フィルタにゴミが詰まっている	燃料フィルタを清掃する (P17(4) 燃料タンクの項目参照)
エアークリーナのエLEMENTが詰まっている	ELEMENTを清掃する (P16(2) エアークリーナの項目参照)
マフラーテールパイプがカーボンで詰まっている	テールパイプのカーボンを取り除く
冷却風通路やシリンダフィンにゴミが詰まっている	冷却風通路やシリンダフィンのゴミを取り除く (P17(5) エンジン各部の清掃の項目参照)

(3) 運転中、回転が次第に下がる時

故障原因	対策
不良燃料を使用している	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正規の混合燃料に入れかえる (P9 混合燃料の準備と補給方法の項目参照)
エアークリーナのエLEMENTが詰まっている	ELEMENTを清掃する (P16(2) エアークリーナの項目参照)

上記についてお調べのうえで、なおサービスが必要なときは
最寄りの取扱店にご相談ください。

廃棄について

長年使用され廃棄されるときは、産業廃棄物として処理してください。

サービスと保証について

■ 警告 保証について

機械の改造は危険ですので決して改造しないでください。改造した場合や、取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合、使用上の誤りがあった場合は、メーカーの保証対象外になりますのでご注意ください。また、保証書をよくお読みください。

■ 保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになった後は大切に保管してください。

■ アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、すぐに適切な整備をしてください。お買い上げの販売店にご連絡ください。

○連絡していただく内容

- 機種名
- 製造番号
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

○本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、お買い上げの販売店に点検整備をご依頼ください。この時の整備は有料となります。

■ 補修部品の供給年限について

本製品の補修部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後8年です。但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

10.仕様

名 称			BP252
本 機	寸法（長×幅×高）	mm	325 X 270 X 800
	乾燥質量	kg	5.9
	吸水・吐出口径	mm	25（1 1/2）
	最大吐出量	L/min	110
	最大全揚程	L/min	36
エ ン ジ ン	名称		BE230
	形式		空冷2サイクル正立ピストンバルブ式
	排気量	cm ³	23
	使用燃料		潤滑油混合燃料
	使用潤滑油		2サイクル専用オイル
	混合比		25（ガソリン）：1（2サイクル専用オイル）
	燃料タンク容量	L	0.5
	気化器		ロータリバルブ式ダイヤフラム
	点火方式		無接点マグネトー点火式
	点火プラグ		CHAMPION CJ8Y
	始動方式		マジックスタートリコイル式
	停止方式		トグル式

●改良のため予告なく仕様を変更することがあります。



東京都千代田区内神田 3-4-15 TEL 03 (3252) 2288

P/N 546360-01